

## 幼小接続期カリキュラムを活用した保育の実際

柴垣登・千葉紅子・餘目陽子・渡邊奈穂子・高橋文子・小野章江・佐々木由美・川村真紀\*，

今野日出晴・中村宗宏・金子裕輔・小野寺洋平・遠藤真央\*\*

\*岩手大学教育学部附属幼稚園，\*\*岩手大学教育学部附属小学校

(令和3年3月4日受理)

### 1. はじめに

幼稚園においては、園生活全体を通して、幼児に生きる力の基礎を育むことが求められている。そのため、幼稚園教育の基本を踏まえ、小学校以降の子供の発達を見通しながら教育活動を展開し、幼稚園教育において育みたい資質・能力を育てていくことが大切である。

幼児教育では「知識・及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱から構成される資質・能力を育むこととされ、幼児期と児童期の教育活動は、双方の教育活動のつながりを見通しつつ、展開することが必要である。そのため連携・接続の体制を作り、接続を意識した教育課程の編成・実施を行いながら連携を深めていくことが求められている。

附属幼稚園と附属小学校は、折に触れ多様な連携をしたり、年4回の幼小交流活動を行ったっている。交流活動では、子供も教師も互いに学びある互恵的な活動になるよう、指導案を作成したり、子供の体験や学びの読み取りを一緒に行う機会を作ったりし、よりよい活動になることを目指してきている。

昨年度は、「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目を視点として、子供の姿を共通理解し、昨年度末には、「接続期カリキュラム原案」の資料ファイル(名称:幼小連携カリキュラム資料)を作成した。

今年度はその資料の内容を生かしながら、教師間の幼児理解を深めるために、接続期カリキュラムの内容が具体的にイメージできるような実践事例を積み上げることにした。

また、幼小交流活動の内容を工夫・改善するために、これまでの交流活動の内容・方法を振り返り、交流における幼小双方の子供の体験の意味、活動の意義やねらいを踏まえた上で、幼小の教師と一緒に今年度の計画を作成し、実践していくことにした。

### 2. 研究の内容と方法

- (1) 日々の実践・園内研究会・月毎の指導計画振り返りから、接続期カリキュラムの具体事例をまとめる。
- (2) 今年度の幼小交流活動において、工夫・改善したことについて、その内容を検証し、まとめる。

### 3. 実践

- (1) 日々の実践・園内研究会・月毎の指導計画振り返りから、接続期カリキュラムの具体事例をまとめる。

本園と附属小学校では、5歳児後半の教育課程に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が具体的に示されていると考え、昨年度作成した「幼小連携カリキュラム資料」ファイルにおいては、5歳児10月～3月(本園教育課程5歳児Ⅲ期)のねらいや内容を記載している。そこで、今年度園内で検討したその時期の事例を、接続を意識してまとめ、下記の視点で考察をし、理解を共有する。

#### 【考察の視点】

- 視点①どのような資質・能力が育っているか
- 視点②環境構成や援助

なお、この時期のねらいは次のとおりである。

**5歳児10月～3月のねらい**

- 一人一人が自分なりの力を発揮するとともに、互いのよさを認めたり生かしたりしながら遊びを進めるようになる。
- 友達との関わりを深め、共通の目的に向けて協力して取り組み、やり遂げた喜びや仲間との一体感を味わう。

**事例1****5歳児10月****「お祭りごっこの屋台作り」**

運動会の取組を通し、子供達はテーマに沿ってみんなと表現したり、目的を持ち遊びや活動に取り組んだりすることに面白さを感じるようになってきた。そこで、この育ちを受け、年長児みんなで共通の目的に向かって友達と取り組み、やり遂げた満足感を味わえる体験を重ねていきたいと思った。ちょうどさつまいもがたくさん収穫できた時期と重なっていたことから、収穫祭を年少・中児を招いて開くことを投げかけると、子供達はお祭りにとっても意欲的で、何を作り、どんなお店にするか、話し合いが進んだ。

食べ物屋グループの5人は、さっそく自分達で材料を選び、これまでの体験を生かして、たこ焼きと焼きそばを作り始めた。小さい組の子供達がたくさん来るだろうと考え、「たこ焼きは100個作る！」と自分達で目標を決めていた。しかし、できあがっていくにつれ、目的が見出しにくくなっていく様子が見られてきた。少しでもお祭りの屋台のイメージが持てると、5人の気持ちがつながりやりたいことを相談していけるのではないかと考えた。そこで、絵本「おまつり」を一緒に見てみることにした。「屋根は斜めに取り付けるんだね」「木を組み合わせていくんだね」と関心を持ち、本物の木材でできていることに心惹かれ「やってみたい」という思いが感じられた。そこで倉庫から木材を教師と一緒に運び出し、店の幅に合わせて印をつけたり、板を押さえてあげたりし、大きさを揃えた板に釘を打ち始め、5人で遊びがながっていった。

それぞれなりにかかわろうとしたり、張り切ってやろうとしたりする気持ちを受け止めながら様子を見ていると、釘を打ち付けた板から釘の先が

出ていることに気付いた。そこで、とにかく大きな釘を打ち付けようとするK児に、教師は釘を板の厚みの横に示し、「こうやって釘が板からはみ出すと危ないよ」と伝えた。すると次の釘を打つ時は、釘が飛び出す危険性を考え、釘を選んでからやろうとしていた。後からやってきたS児にも「ちょっと待って！こうやって、確かめると……。ほら。釘が下にはみ出すと長くて危ないでしょ。だからこっちの釘を使うんだ。」と自分の体験をS児に伝えていた。S児も、K児に言われた通りに確かめて釘を選ぶようになった。周りの子供達もそれを聞いていて、仲間が気を付けていることを察知して、釘が飛び出さないように気を付けながら材料や道具と向き合っていた。

**【考察】****視点①どのような資質・能力が育っているか**

- ・教師から投げかけられたお祭りではあるが、楽しみを見出し、これまでの経験を生かし、自分達で作るものを決め、材料を選ぶなど、主体的に取り組む姿が見られた。

**【自立心、健康な心と体、学びに向かう力・人間性等】**

- ・絵本「おまつり」から得た情報をもとに、自分達もやってみたいと意欲を持っている。

**【社会生活との関わり、健康な心と体、知識・理解の基礎、学びに向かう力・人間性等】**

- ・木材を一緒に運んだり、板を押さえてあげたりし、仲間と一緒に取り組むことに喜びを感じる。

**【協同性、学びに向かう力・人間性等】**

- ・釘の長さを板の厚みと比較し、釘が板からはみ出さないかどうか確認し、安全な状況へも思いを巡らせている。

**【数量への関心・感覚、健康な心と体、知識・技能の基礎】**

- ・仲間が発信する情報を受け止め、共有している。

**【協同性、学びに向かう力・人間性等】**

## 視点②環境構成と援助

- ・運動会での体験をつなげ、より遊びが活性化し、体験が深まることを願って、お祭りを開くことを提案した。しかし、このグループのように、最終目的は見えているものの、自分達で相談しながらお祭りの準備の具体を考えることが難しい様子もあり、グループの様子を見ながら細やかな援助が必要だと感じた。
- ・5人が協力して取り組む状況を作るための素材として木材を選んだ。一人では作業できない状況により、一緒に持ったり、互いに気づきを伝えたりする状況を作り出すことはできた。一方で、子供達だけでは安全を考えたり、頑丈に作ったりすることが難しかった。子供達が自分達で進めていけるように、これまでの体験や技能に合わせた素材を選ぶなど、もう少し教材研究が必要だと感じた。

### 事例2

5歳児 11月～2月

#### 「ヒヤシンスの水栽培」

春から秋の間、子供達は畑で野菜を育て、作物の成長に関心を寄せたり、収穫の喜びを味わったりしてきた。冬の間も身近な植物の生長に関心をつなげてほしいと願い、11月下旬からグループ毎に、ヒヤシンスの球根の水栽培を始めることにした。

畑と違って、水栽培用の透明な鉢で観察することにより、球根の根の変化に心を寄せたり、これまで見たことのなかった土の中の様子に興味を持って関わったりできるようにしたいと考えた。また、これまで様々な仕事を協力してやってきたグループでお世話をすることにした。

まず、水栽培の鉢は、登園した時に廊下からよく見える棚の上に置くことにした。登園すると、すぐに気かけカバーを取り、鉢の様子を確かめる姿があった。観察を続けていくと、12月は白い根が伸び始めた。「すごい！」「針の山みたい！」と口々に言っていた。また、先がとがっている根の様子を見て「触ったら痛いのかな。」実際に触れ

てみると「あれ、柔らかいよ。」と、予想とは違うことに驚いていた。

冬休みを挟み、1月になっても子供達のヒヤシンスへの関心は続き、休み前よりも根がたくさん伸びていることや、小さかった芽がぐんと伸びていることに驚いていた。続けて見ているうちに、蕾の膨らみ具合や色の付き具合に気が付き、よく色づき膨らんでいる花の蕾を見ては、「もう咲くよ！」と声が上がっていた。教師もその姿に共感したり、降園前のひと時に「明日はヒヤシンスどうなっているかな？」と、子供達の関心が翌日もつながっていくことを願って声をかけたりした。

自分のグループの芽がなかなか出ないK児も、他グループの花の蕾の様子を見ながら「こっちはもう咲きそうだね。こっちはもう少しだね。」と好意的に受け止めて話していた。また、当番カードを確かめ、「今日は〇〇君が当番だよ」と、グループの水の取り換えを欠かさないう、声をかけていた。



### 【考察】

#### 視点①どのような資質・能力が育っているか

- ・根が伸びていく様子を初めて目にした感動を表す「針の山」という表現は、読み聞かせした絵本「じごくのそうべえ」に出てくる針の山のイメージから来していると考えられる。子供達はこのお話が大好きで、11月には劇遊びとしても楽しんだ。体験してきた素敵な表現をもとに伝えようとしている。

【言葉による伝え合い、豊かな感性と表現、思考力・判断力・表現力等の基礎】

- ・根の先のとんがりは、きっと針のように痛だろうと予測したが、意外にも柔らかいことに気付き、予想と違っていたことから、また関心を膨らませるきっかけになっている。

【思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、学びに向かう力・人間性等】

- ・毎日観察を続けることにより、蕾の色づき具合

や膨らみ具合の小さな変化にも気付いて友達と共有し、気づいた情報をもとに、「もうすぐ咲くだろう」と予想を立てる力に変えている。

【思考力の芽生え、社会生活との関わり、  
思考力・判断力・表現力等の基礎】

- ・1か月という間があると、成長には速度の違いがあることに気づいている。その違いも受け止め、速いだけがよいことではなく、これから咲きそうな球根にも「もう少しだね」と思いやりを込めた言葉をかけている。  
【思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、知識・理解の基礎、学びに向かう力・人間性等】
- ・水の取り換えを忘れないように自分達で声をかけている。毎日世話をする必要性を感じ、自分達の球根を大切に育てていきたいという思いを持っている。  
【協同性、自立心、学びに向かう力・人間性等】

**視点②環境構成と援助**

- ・登園時に目に入る場所に球根を置くことにより、球根への興味を引き出す状況となり、継続して関心を持ったり世話をしたりする気持ちを支えた。
- ・ヒヤシンスの成長に驚く子供達の言葉に教師も共感したり、教師自身も球根の小さな変化を見つける楽しみを持ったり、明日につながる声をかけたりする姿は、子供達の関心や興味をつなげていく状況となった。

(2) 今年度の幼小交流活動において、工夫・改善したことについて、その内容を検証し、まとめる。

4月～12月は、幼小交流活動を実施することができなかったが、直接会えなくても双方に学びのある活動となるよう内容を検討し、1月～2月に実施することにした。

「幼小連携カリキュラム資料」をもとに活動内容を検討した結果、年長児のこの時期のねらいと、カルタを作ってみんなで遊ぶ活動、1年生の生活

科における最後（4回目）の幼小交流活動のねらいと内容を生かし、今年度なりの工夫を加えた活動計画を立てることにした。

～「幼小連携カリキュラム資料」より

今年度の幼小交流活動に関する内容を抜粋～

5歳児・10～3月 体験内容	
人との かかわりの 体験	・自分の成長を感じ、自分に自信を持ったり、可能性を広げたりしていく。【自立心】
	・大勢の友達とチームで競い合うことを楽しみ、ルールを共有して遊ぶ。【協同性】
	・小学生との交流を通して、生活を広げていく。 【社会生活との関わり】
ものとの かかわりの 体験	・小学生になることへの期待を持ち、意欲的に遊んだり生活したりする。【健康な心と体】
	・読んだり書いたり使ったりすることを通して、文字等への関心・感覚が高まるようになるとともに、それらを通して遊びや生活を豊かにしていく。 【文字等への関心・感覚】
第1学年 学年経営案（行事・教育活動編） 2月	
えんじとな かよし4 （附属幼稚園交流）	・身近な幼児（附属幼稚園児）と関わることの楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。 ・交流を深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信を持って生活できるようにする。

**工夫①幼小交流活動計画**

**ねらい**

- 【年長児】 小学校への入学を心待ちにしているこの時期に、小学校1年生との交流を通して、学校への期待を膨らませるとともに、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりし、自分に自信を持つ。
- 【1年生】 附属幼稚園年長児との交流学習を通して、園児が安心して入学を迎えることができるように、カルタで伝えたいことを考え、園



児と関わるよさや自分自身の成長に気づき、これからへの期待を持って意欲的に生活することができるようにする。

**主な活動**

「カルタ作り」を通しての交流

月日	活動	年長児の活動内容
12月末	教師との話	・小学校について知りたいことを、教師やクラスの友達と話題にする。
1/21	ライン電話による初めてのリモート交流	・年長児が小学校について知りたいことを質問し、小学生が答える。
2/3	小学生の作った学校紹介VTRを見る（小学校の先生が持ってきてくれる）	・VTRを見ての感想やもっと聞きたいことを、来てくれた小学校の先生に伝える。
2月中	カルタ作り	・自分の園生活を振り返ってカルタを作り、クラスのみんなで楽しむ。
3月上旬	カルタの交流	・互いに作ったカルタを届け、カルタ取りを楽しむ。 ・小学生にお礼のVTRを作成し、届ける。

**【エピソード】**

12月末の教師との話において、子供達の一番の関心は「勉強」に関わるものだった。「勉強が楽しみ」「算数やりたい」と前向きにとらえる意見だけでなく「勉強が分かるかどうか心配」と不安を話す子もいた。また、「勉強が分からない時は教えてもらえるのだろうか」とその状況に立った自分を想像して話す子もいた。  
冬休みを挟んだ1か月後、小学生とのリモー

ート交流には、どの子も関心を向けており、質問したいと多くの子が手を挙げた。画面に映る1年生が知らない子であっても、自分の質問に答えてもらえることは嬉しかったようだ。

一方で、この日出てきたやりとりは、

- ㊦「跳び箱ってやるんですか？」
- ㊧「体育の時間にやります。」
- ㊨「どんな勉強をするのですか？」
- ㊩「国語とか算数とかをします。」

のように、年長児が小学校について知っている言葉を使って聞いてみて、それに対し1年生が答えるのだが、あまり具体的な学校生活をイメージするやりとりにはならなかった。

**【考察】**

**視点①どのような資質・能力が育っているか**

- ・この時期、年長児の「小学校」への関心は高く、直接会えなくても画面上で1年生と交流できることに意欲を持ち、とても楽しみにする姿があった。【健康な心と体、社会生活との関わり、学びに向かう力・人間性等】
- ・画面上のやり取りにおいて、相手の発信することに耳を傾け、聞いてみたいことを自分なりに伝えようとしている。【言葉による伝え合い、学びに向かう力・人間性等】

**視点②環境構成と援助**

- ・コロナ禍での交流という点から考えると、リモート交流は1つの工夫ではあった。しかし、年長児は初めての状況で、その真新しさに心が行きがちだった。12月に話していた「勉強が分からない時は教えてもらえるのか」のような本音をゆっくり伝える状況にはなりにくかった。

**工夫②小学校の先生が再度訪問し、1年生が作った学校紹介VTRを届けてくれる**

**【エピソード】**

小学校の先生が部屋に入ってくると、子供達は少し緊張気味の表情だった。しかし、小学校の先生がVTRを持ってきてくれたこと、また、そのVTRにはリモートでの交流活動で話題になった内容がたくさん取り上げられていたことで、子供達は、興味を持って見始め

た。「跳び箱」を実際に跳んでみせる場面では、「あ、跳び箱だ」と気づき、興味津々に見ていた。

また、校庭でできる遊び紹介のVTRには、遊具を実際に使って遊ぶ様子が収められていた。鉄棒やジャングルジムを見て、「あ、これ、知ってる。」  
「私もできるよ。」と得意気に話していたH児。幼稚園にはない登り棒をやってみせる1年生を見て「すごい！」と驚きの声を上げた。登り切った所でVTRが終わると「どうやって降りるんだろう？」とつぶやいたりしていた。

### 【考察】

#### 視点①どのような資質・能力が育っているか

- ・幼稚園の先生ではなく、小学校の先生の話聞くこととなったが、注意深く情報を聞き取ろうとしていた。

【健康な心と体、社会生活との関わり、言葉による伝え合い、学びに向かう力・人間性等】

- ・小学校で使う跳び箱や遊具など、学校にあるものについて実物を見て知り、学校についての知識が広がることも、小学校への期待を高めることにつながった。

【社会生活との関わり、知識・技能の基礎】

#### 視点②環境構成と援助

- ・直接小学校の先生が授業の合間を縫って来園したことは、学校を体験している気持ちになり、つながりを感じるよい人的環境であった。
- ・VTRに収められている、学校にある実物や、それを使っている姿は、年長児にとって学校のイメージが具体的に分かりやすく、学校への期待や目標を持ったり、新たな疑問が湧いたりする環境となった。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- ・接続期カリキュラムの具体事例の検討を通して、幼小の教師間の相互理解のために伝えたいことは何か吟味し、園内で共有することができた。
- ・コロナ禍であったが、幼小交流活動について、新たな交流の仕方を見出すことができた。

### (2) 課題

- ・今後も、多様な場面の事例を集め「幼小連携カリキュラム資料」ファイルに積み上げていく。
- ・幼稚園の事例について、小学校の教師と内容を検討する機会を重ね、体験の意味や学びを共通理解する。また、幼稚園からつながった小学校の生活についても、一緒に考えていく機会を持つ。
- ・今後も豊かな実践が展開していくよう、保育の質の向上や充実を目指していく。

### 【参考・引用文献】

- 1) 幼児教育じほう 2017. 5 より  
無藤 隆「論説 幼児教育の新しい姿から小学校教育の接続を見通す」  
奈須 正裕「論説 幼児教育と小学校教育の接続—学びの履歴をつなぐとは—」
- 2) 初等教育資料 2019. 10
- 3) 平成 29 年度広島大学附属三原学校園研究紀要
- 4) 平成 30 年度附属幼稚園研究紀要
- 5) 平成 30 年度花巻幼稚園公開研究会資料
- 6) 平成 30 年度岩手県国公立幼稚園・こども園教育研究大会 第 3 分科会資料
- 7) 令和元年度岩手県国公立幼稚園・こども園教育研究大会 第 3 分科会資料
- 8) 幼稚園教育要領解説
- 9) 小学校学習指導要領 生活科解説
- 10) 盛岡市接続プログラムグランドデザイン